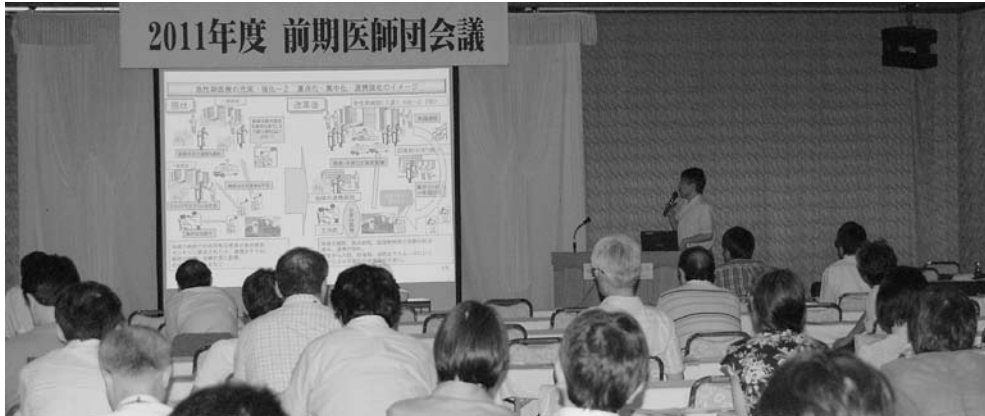


2011年度 宮城厚生協会

事業計画

2011年6月11日 第12回理事会
2011年6月29日 第3回評議員会



2011年度県連前期医師団会議 (7月9日)

厚生協会だより

2011年7月21日
第 308 号

発行
(財)宮城厚生協会

〒985-0835
宮城県多賀城市下馬
二丁目13番7号
TEL 022-361-1113
FAX 022-361-1124
発行人：長澤 清光

はじめに

3月11日に発生した東日本大震災は、巨大地震とともに県内各地の沿岸部に甚大な被害をもたらしました。また地震、津波に加え、原発事故も発生し安全神話を振りかざしていた原発はもろくも崩れ去り、問題を露呈しました。宮城県内の死者・行方不明者は2万人を超え、30数万人の避難者、家屋などの建造物から道路などのライフラインまで破壊しつくし、生々しい傷跡を残しています。避難所はいまだ解消されず、被災者の生活は依然として困難を極めて

います。宮城医連内の職員4名の死亡はじめ、職員の親族も多数、死亡・行方不明者が発生し、職員の住宅・実家にも大きな被害を受けました。

厚生協会内の各事業所施

設の被害は、長町病院附属クリニックが損壊し解体が余儀なくされました。病院本体も階段接合部の乖離、壁面のヒビ多数あり改修が必要になっています。坂総合病院での外壁亀裂等をはじめ泉病院も玄関上病室5床の使用不可、リハ棟階段天井の破損、プレハブの破損による撤去、各事業所での破損が多数発生し改修工事が必要になっています。

坂総合病院や長町病院はじめ、各病院・事業所では震災と同時に「震災対策本部」を立上げ昼夜問わず、不眠不休で被災者への医療・介護を支えてきました。職員・患者友の会の方々も大きな被害を受けましたが、患者の命を守る人びとの最後のよりどころとして、避難所への巡回救援活動や安否確認など、あらゆる活動を積極的に行ってきた。坂総合病院は地域の「災害医療拠点病院」としての24時間、トリアージ体制を全職員の力と、全日本医連(5月25日現在、医師369名、看護師652名はじめ、2368名)から多くのスタッフの支援により困難な中

役割を果たし、3月23日から通常診療体制にもどりました。が、通常をはるかに超える救急車や救急患者の搬入が続きました。

震災を通して自民党政権が進め、民主党政権に受け継いだ構造改革路線による、公立病院の統廃合による病床削減や東北地方の医師不足問題が災害医療対策に大きな問題として露呈しました。被災地での第一線で、生命を守るために最も緊急に必要とされた支援は医療です。代替の利かない厳しい状況で地域の方々の命を守る最前線に立ち、人びとの最後のよりどころになりました。医療・福祉分野の復興対策として「災害関連疾病・災害関連死(二次災害)の予防」「医療福祉の連携の強化のための県レベルでの役割発揮」「震災で機能不全状態になっている医療・福祉関連施設への再建援助」など地域で重要な役割を担っている民間医療機関含めて再建・復興に県及び国が責任を持って財政的援助を行うことを広範な運動含めて求めていきます。

政府の「復興構想会議」

が進めようとしている「復興税」の名のもとに庶民への増税を許さず、「新成長戦略」に基づく「医療・介護の一体改革」、構造改革路線への回帰政策に抗して全力をあげてたたかいます。政府の政策を転換し、生活再建と地域復興を第一に考えた、「東日本大震災復興旧・復興支援みやぎ県民センター」に県連に結集して参加し、医療・福祉・介護の分野から役割を果たします。

理事会は、被災された職員への必要な援助と避難所仮設住宅はじめ地域の方々の医療支援、生活援助の対策に引き続き取り組みます。長町病院附属クリニックの解体・再建をはじめ、被災した各病院・事業所の改修工事を進めます。費用は2億円以上必要であり、更に被災による債務超過が5億円を超えます。

1、宮城厚生協会の2011年度の

事業計画を進める基本視点と重点課題

1、事業計画を進める基本視点
職員を先頭に、地域の方々や友の会と一緒に、震災復

旧・復興に向けた運動に取り組みます。被災者の支援はじめ、仮設住宅等での医

す。2011年度経営目標は+5億円超の利益計画が必要職員・労組の協力のもとに力を結集して事業継続を第一義的課題とし1年間で達成とします。「無料低額診療」の拡大や厚生協会の経営改善を進め2012年度に公益法人認定申請を行い、新法人格取得に向けて踏み出します。

今こそ新民医連綱領実践の真価が問われています。医療・介護の現場から生活再建と地域の復興のため、社会保障の抜本的転換・充実を求める国民的運動を通じて政治を変えて行きましょう。憲法9条・25条が真に活かされる社会を築くために、友の会や地域の方々とともに、安心して必要な医療・介護、社会保障が受けられる国づくりを目指して運動を広範に進めます。

2、事業計画の重点課題

療・生活支援への取り組みを各団体との共同の力で進めます。
厚生協会の事業継続を第一義にし、2012年度に公益認定申請を可能にするために利益目標5億円を1年間でやりあげます。長町病院附属クリニックの再建を軸に、厚生協会の事業再構築の基本プランを秋までにまとめ、実行計画を練り上げます。

長町病院附属クリニックの再建の検討・具体化を行います。長町病院は限定された中で、外来診療を取り組み、リハビリ医療の優位性を最大限に生かした経営対策など、看護師配置による病床の一部拡大や病床稼働を高めめます。一定の職員の仕事所への移動も考え、赤字幅の縮小を図ります。

坂総合病院は地域の医療・福祉、在宅医療のネットワ

ークの推進による地域医療支援病院としての一層の役割・機能の発揮を行います。病理の開設、救急・急性期医療の質・機能の向上、救急・紹介患者の受入れ強化、看護師配置による安定稼働、総合マネジメントシステムの導入による管理システムの稼働、地域連携のネットワークの強化、地域開放型研修会の開催、薬学生病院実務実習等の実習受入れ実施、県連のセンター病院としての後継者養成を位置付けます。

古川民主病院は、医師体制に見合った外来・在宅医療を追求、病床の安定稼働とデイケア施設増築に伴う収益増と介護分野の強化を図ります。中新田民主医院の一体管理の強化を具体的に進めます。

泉病院は病床稼働目標達成による経営改善に取り組めます。厚生協会の財務・経営力量から泉病院と長町病院附属クリニックの両方を同時進行での建設計画は不可能です。長町病院附属クリニック跡地利用計画と

合わせて総合的に新構想を検討・具体化を行います。協会歯科事業の黒字化を目標に今後の構想の検討・具体化を行い、その中で長町歯科のあり方を判断します。赤字事業所のあり方を含めた対策を行います。

事業収益147億円以上確保し5億円以上の利益を確保します。災害による厚生協会の復旧と事業継続のために寄附金を1億5千万円集めます。



坂総合クリニック1号館会計窓口



移動何でも相談会(六郷中学校校庭)

II、事業計画、重点課題を進める上での必要な課題

1、人権を守り、安全・安心・信頼の医療と質の管理、医療整備の点検と再構築

地域の方々とともに震災復興と生活再建を図り、経済的困難な方々が安心して受診できるように、「無料低額診療」を全病院・診療所での実施や医療相談活動等、人権・健康権を守る活動を重視し、医療の質、安全・安心・信頼の医療・介護の取り組みを強化します。

医療整備チェックリスト作成と点検、マニュアルの継続的見直し整備と遵守、医療

倫理、終末期医療、高齢者医療に対する取り組みを引き続き強化します。

2、医師確保と配置、看護師確保は引続く最重要課題

病床稼働や医療活動の力を握る医師確保を最重要課題として取り組みます。既卒医師確保、特に内科医師確保が必要であり、既卒医師確保対策の役割強化を行います。新卒医師11名の確保目標に向け医学生委員会の役割強化を図ります。

患者にとって安全・安心の医療の提供の実現、医師・看護師の確保による労働環境改善、経営改善の三つの目標実現のため、医師・看護師確保と定着強化を位置づけます。

3、介護事業の重視

計画的な人材育成を行います。介護システム更新時に業務改善を主眼に選定します。各事業の内部監査を継続、利用者が100人を超える事

業所についてはチームを分けた業務方法を検討します。

震災による高齢者のケアの取り組みを重視し、若林クリニックでの通所事業の開始、新たな高齢者施設等の事業拡大のための必要な事業計画の検討・具体化の準備を行います。

4、特定健診・保健予防活動及び「協会けんぽ」の取り組み強化

協会健診センターの機能を泉病院に移動します。そのため伴う職域健診が減少します。「協会けんぽ」健診事業の目標を明確にし、事業所の各科の専門性を生かした特定健診・保健予防活動を重視します。

5、急がれる民医連を担う職員育成、後継者養成

事務幹部の育成・養成を重視します。全職員への育成面接と職場目標に基づく個人目標の確立とともに業務改善目標に組み込みます。改善活動の取り組みの共有の場として職場業務改善第4回交流会を開催します。

専門資格取得奨励、キャリアアップ、学術活動の向上、県連次世代事務幹部学校への援助、職員が最低年1回の研修参加の保障を行います。

6、企業倫理の確立と行動計画に基づく役割発揮

「内部統制室」を中心に、事務系幹部と協力して各病院・事業所での「法令遵守と不正及び過失防止」の基本方針に基づく内部監査の実施。監事会と連携した整備運用を行います。

創設した内部通報制度の運用、職員の倫理意識の徹底のための「職員行動指針」の策定と教育のための関係法令の学習会を開催します。

7、システム対応とネットワーク化に向けて

坂総合病院での総合マネジメントシステム関連の導入

と事業協内のネットワーク化や地域連携のネットワーク構築の検討・具体化を行います。人事・給与システム、共同システム関連の導入検討を事業協と協力しながら進めます。

8、友の会の拡大強化と地域住民運動としての役割発揮

震災復興に向けて、地域の方々と友の会、職員が心をひとつにして「安心して住み続けられるまちづくり」をめざした運動と、医療・福祉の住民運動組織であり「まちづくり」運動の主体者としての友の会強化を図ります。

困難な時代だからこそ助け合い、ボランティア活動、相談活動等を通じた、自治体への地域住民運動としての役割発揮。地域型友の会への発展に向け、組織構成員が主人公の活動を重視します。

III、事業計画推進に向けた費用検討課題

1、事業計画を推進する上で費用検討課題

各病院・事業所の政策投資は必要最小限に止めます。



各位

東日本大震災による被害を克服し、協会事業の復興と今後の発展のため
厚生協会震災復興募金へのご協力をお願いします

2011年6月 宮城厚生協会理事会

常日頃より、皆さまには当協会の事業についてご理解賜り、深く感謝致します。また、事業所・友の会が協力して取り組んでいる医療・介護・社会保障改善の運動、さらには健康まつり等地域での健康を守る取り組みへのご協力に対しあらためて感謝申し上げます。

さて、今般の東日本大震災では、長町病院附属クリニックが大規模に損壊し、建物自体が使用禁止となり解体せざるを得ない状況となるなど協会各事業所も大きな被害を受けました。2010年度、宮城厚生協会は、震災前までは、一定の経常利益を確保し公益認定を目指すための財務基盤をつくりつつありました。しかし、震災による被害が殊のほか大きく、2010年度の決算では大きな特別損失を計上せざるを得ず、厳しい財務状況となっています。この状態が続くと、公益認定が難しいだけでなく、法人事業の存続にも支障が生ずる事態となってしまう。今回の震災後の困難を克服し、協会事業の新たな発展を期するためには、事業収益を確保し、着実に利益をつくりだすとともに、寄附金（震災復興募金）による自己資本の充実が必要となっております。

今、地域では、震災による生活困難ばかりでなく、税と社会保障の一体改革の名のもと、消費税率の引き上げ、医療費の窓口定額負担の新設など、新たな負担増が計画されており、受診したくてもできない、利用したくてもできない患者・利用者がさらに多く生まれようとしています。こうした中で、宮城厚生協会は、救命救急から避難所での医療活動など被災された方々への医療支援とともに、これまでの坂総合病院に加え、今年の4月から坂総合クリニック、長町病院、泉病院、古川民主病院で、地域の皆さまの健康権を守るための取り組みとして無料低額診療事業を開始しました。

つきましては、震災による被害からの復興と、厚生協会各事業所での活動を発展させるため、ぜひとも震災復興募金をお寄せいただきますよう心よりお願い申し上げます。



■協会震災復興募金振込口座		口座番号	名義人		
財団法人 宮城厚生協会	七十七銀行本店	普通預金 9180842	財団法人 宮城厚生協会	理事長	水戸部秀利
坂総合病院	同上	普通預金 7932995	坂総合病院	院長	今田 隆一
長町病院	同上	普通預金 7932952	長町病院	院長	水尻 強志
泉病院	同上	普通預金 7932979	泉病院	院長	宮沼 弘明
古川民主病院	同上	普通預金 7932987	古川民主病院	院長	呉 賢一

塩釜・多賀城の仮設住宅を訪問し健康調査実施

「坂さんは避難所の時も、仮設住宅にも来てくれる。ありがたい。」という声が

坂病院社保委員会事務局・事務部長

神倉 功

社保委員会で、6月30日に仮設住宅入居者の健康調査を目的に仮設住宅への一斉訪問を行いました。

多賀城公園の仮設



伊保石の仮設



訪問前に1号館5Fダイルムで意志統一説明する富山先生(右後ろ向)

457軒訪問、143軒で面談

この日の塩釜市は34.2度と観測史上6月最高気温の猛暑。今田院長を先頭に医師3名看護師25名を含む総勢80名が参加し塩釜市・多賀城市の仮設住宅6カ所457軒を訪問し143軒で面談できました。また「熱中症チラシ」を配布し注意を呼びかけました。全体の面談143軒中、114軒で回答をいただきました。内容は以下の通り。睡眠について「寝付きが悪く30名(26.3%)。早く目覚める41軒(28.7%)。食事について「食欲なく食



べれない13名(9.1%)。震災後痩せた34名(23.8%)。*震災後体重減少した方で、5kg以上減4名、10kg以上減3名、13kg以上減1名。血圧測定した方 33名中、最高血圧150以上13名、うち通院加療中3名。血圧の高い方や体重減少が大きい方で通院歴無し8名について、仮設住宅入居者支援のため設置した「パーソナルサポートチーム」で今後個別に対応していきます。

30度超でもクーラー使わず、使用法わからない高齢者も

多くのお宅が「坂病院さんですか、避難所ではお世話になりました」「どうぞ、上がってください」と言っていた。お話の内容は、津波や震災時の事がほとんどですが、仮設住宅は話し相手がいない「隣の音が筒抜け」「通院・買い物が出しにくい」など苦情や要望が出されました。部屋の温度計が30度超でもクーラー使わず窓を開けてい



入口でお話を伺う(伊保石)

るだけ。「経済的に大変だ」「先行き不安だから」と節約している状態です。また、高齢者の中には、「クーラーの使い方わからない」「カギのかけかたわからない」という方もありました。

独居高齢者が熱中症で死亡というケースも

仮設住宅を訪問中に、前日に独居男性高齢者が熱中症で死亡という情報も巡回中の警察の方からありました。一人暮らしで中からカギをかけており、発見が遅れたようだとのことでした。実際、類似した環境の住民は他にもおり同様のケースが起きないよう、小まめな巡回など対応が必要です。当院では現在定期的に避難

参加者の感想から

一人暮らしの方。室温35度。エアコン使わず、水分あまりとっていないようで熱中症の話をしてきた。

「暑い」「狭い」「音が漏れる」「プライバシーがない」と言う声多くシヨクだった。

皆さん、話し始めると止まらず辛い思いを吐き出したいと感じた。話した後すっきりした様子で「暑いのにありがとう」と言われた。

一人暮らしの方は、話し込む方が多く、寂しいのかもと感じられた。逆にこちらが励まされた。



血圧を測りながら優しく聴く藤原先生(左)地震発生時からの思いがいろいろ語られました(伊保石)



「写楽庵」で楽しい時間過ごす



きりんの会

坂病院検査室

佐藤 龍朗

はじめは、地域おこし活動の手伝いから

「キリン」でも「麒麟」でもなく、ひらがなの「きりんの会」。
27年前、「生出」地域の青年が集まり結成された。当初は、生出公民館の地域おこし活動の手伝いが主な活動だった。その後、近くにできた「茂庭団地」住民との交流を目的に取り組んできた「おいでとりたて市」、使わなくなった畑を借りてはじめた、貸し農園「とりたて農園」。そして、田園風景を次の代まで残していこうとはじまった、凧あげ大会「フライハイおいで」など様々取り組みをおこなってきた。

近況報告は、震災のこと

先日、久しぶりの会合がいつもの場所で開かれた。
今回は、蛍をみながら、会長の「還暦祝い」を兼ねた集まりで、私を含めた創設当時のメンバー、宮城厚生協会の退職者、そば打ち職人の元職員、そして「仙台凧の会」のメンバーや地域の方などが集まった。近況報告は、震災のことになった。退職後山元町に作った織物、染物工房が津波で流されてしまったことや、震災直後から、全国の凧仲間から、被災地の子供たちに寄せられた手作り凧を持って「避難所」訪問をしていることなどが話された。

当日は、あいにくの大雨で、蛍の飛ぶ姿は見られなかった、地震の影響で、雨漏りのする「写楽庵」で楽しい時間を過ごすことができた。

凧あげできる日くること願い閉会

被災地に一日も早くふつうのくらしが戻り、子供の頃から馴染んできたであろう「風景」が戻って、皆で凧あげできる日がくることを願って閉会とした。

次の例会は、8月末、地域の経験豊かな長老の話を聞き、残していく企画がはじまる。

ALOHAPPY

チャリティーコンサート

7/28 日 18:30~
電力ホール
全席指定 3,500円

● お問い合わせは長町病院の木口らん先生まで (PHS 7106)